

第 14 回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和 7 年 3 月 26 日（水）午前 10 時 00 分から正午まで

2 開催場所

小牧市役所 東庁舎 5 階 大会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
横山 幸司	滋賀大学教授（オンライン）
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
西尾 貞臣	大城小学校区地域協議会
古園井 直紀	公募委員
原 正行	公募委員
宮脇 稔	公募委員

4 欠席委員

和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
川井 則昌	尾張中央農業協同組合
舟橋 拓馬	一般社団法人小牧青年会議所
坪井 和巳	小牧商工会議所
前野 正子	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会
佐藤 章子	光ヶ丘小学校区地域協議会
三木 孝行	公募委員

5 出席オブザーバー

愛知県交通対策課
独立行政法人都市再生機構

6 欠席オブザーバー

愛知県県営住宅管理室

一般社団法人桃花台センター

7 事務局

鵜飼 達市	都市政策部長
舟橋 朋昭	都市政策部次長
林 孝政	都市政策部東部まちづくり推進室長
丹羽 智則	都市政策部都市計画課長
川島 充裕	都市政策部都市整備課長
西島 春恵	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
馬庭 貴彦	都市政策部都市計画課 都市計画係長
服部 達也	都市政策部都市整備課 交通政策係長
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係専門員
立山 由希子	都市政策部都市計画課 都市計画係主任
渡辺 利樹	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係主事
松山 暖流	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係主事補

8 傍聴人数 2名

9 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議題

(1) 東部振興構想アクションプラン(2025～2027 年度)(案)について

3 報告

(1) 小牧市都市計画マスタープラン(地域別構想：東部地域)について

(2) 桃花台地区における土地利用の見直しについて

(3) 小牧市地域公共交通計画について

(4) 令和6年度自動運転実証調査事業の実施結果について

(5) その他

4 閉会

■議事録

【都市政策部次長】

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

ただいまより、第14回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の舟橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料は、次第に記載したとおりであります。ご確認いただき、不足等ございましたら、お申し出いただきますようお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、はじめに増田会長よりごあいさつをいただきたいと思います。

【会長】

おはようございます。

大分暖かくなりましたけれど、桜は今週末、来週末には見頃になる予定とのことです。今はまだ少し咲き始めたところというような状態かと思います。

年度末のお忙しい時期ですが、来年度のアクションプランを議論するということです。よろしくお願いします。

【都市政策部次長】

ありがとうございます。ここでご報告申し上げます。本日の出席委員数は13名でございます。従いまして、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしております。

それでは、以後につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会議を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いします。

【会長】

それでは会を進行させていただきます。

お手元の次第にあるように議題が1件、報告案件がその他含めて5件です。よろしくお願いします。

それでは次第に基づきまして議題（1）、『東部振興構想アクションプラン（2025～2027年度）（案）』についてご報告いただいた後、意見交換をしたいと思います。

【東部まちづくり推進室長】

それでは今議題となりました、東部振興構想アクションプラン（2025～2027年度）（案）につきまして私の方から説明をさせていただきます

はじめに、アクションプランについてであります。東部振興構想の実現に向けて実施する今後3ヶ年の取組を見える化する目的で、毎年、取りまとめているものであります。対象とする取組は、東部地域のまちづくりに関するものを実施主体も含めて幅広く取り上げております。

このように、東部地域で実施される取組をアクションプランという形でまとめ、「見える化」することにより、東部地域での取組を多くの方に知ってもらい、興味を持ち、取組に参加したいと思う人を増やすことを目的としております。

本日は、来年度から3ヶ年のアクションプラン案についてご審議をお願いいたしますが、委員の皆様からいただいたご意見などを踏まえ、アクションプランとして策定してまいります。

それでは、資料2のアクションプラン案に沿ってご説明します。

資料2の6ページをご覧ください。

ページ数であります。資料の左下と右下に記載してあるページ数でご説明いたしますので、よろしくお願いします。

リーディングプロジェクトとは何かであります。 「まちづくりの仕組みづくりや各活動を支援する制度」または「東部地域の関係者が連携・協力し、先導的に進める新たな取組のほか、これまでの取組と組合せ、効果的、効率的にした取組」をリーディングプロジェクトと位置付けております。

次に、7ページをご覧ください。

アクションプランは、東部振興構想の別編として策定しているもので、リーディングプロジェクト、実施中の取組、その他の新たな取組によって構成しております。

また、赤枠で囲ってある部分、東部振興構想の中間見直しであります。計画期間の中間にあたる令和8年度に、実態に即したより効果の高い振興構想とするための中間見直しを予定しており、令和7年度から東部地域の現状分析やこれまでの取組の効果検証などに着手し、中間見直しに向けて進めてまいります。

13ページ、14ページをお願いします。

はじめに、「リーディングプロジェクト」についてであります。

20ページまでがリーディングプロジェクトの一覧となっております。各ページの見出しの横に、アルファベット表記しているものと、数字表記しているもの2種類あるかと思います。

アルファベット表記AからCの3つのリーディングプロジェクトは、まちづくりの仕組みづくりや各活動を支援する制度としており、また、数字表記1から5の5つのリーディングプロジェクトは、東部地域で住民、事業者、団体、学校などの関係者が連携・協力して実施する先導的な取組であります。

まずは、アルファベット表記のリーディングプロジェクトA・Bについて説明をさせていただきます。13ページをご覧ください。

「人と人がつながるプロジェクト」であります。まちづくりの基盤となるプラットフォームづくりの目的でもある「人のつながる場」を創出するもので、具体的にはワークショップの開催であります。

次に、14ページ、「まずはやってみようプロジェクト」であります。

ワークショップで具体化した取組アイデアを、実際にトライアル「お試し」としてやってみようというものであり、その企画・検討から実践まで行うものであります。なお、トライアルの実施にあたり、スタートアップ支援として、市から一部助成を受けることができる制度も設けております。

次に、15ページをご覧ください。「東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度」であります。この制度は、東部地域で進められるまちづくり活動に対し、事業者などからも支援し、活動が円滑に進められるよう、今年度より開始したものであり、東部振興構想に表記のある、「好循環の地域経済の仕組みの構築」を目指すものであります。

次に、16ページをご覧ください。

ここから、18ページまでの「こどもマルシェ」、「あおぞら市場in 緑道」、「地産地消プラットフォーム」につきましては、令和4年度から継続している取組であり、今年度トライアル期間の3年間を終了し、来年度より自立1年目となります。資金調達や仲間集めなど持続性を意識し、地域の認知度も高く、取組として軌道に乗っていると感じています。

19ページの「Waibeeeeマルシェ」や、20ページの「リユースバスケット」も多くの来場者があり、継続を意識して取り組まれております。

それぞれの詳細な内容につきましては、21ページから36ページに記載しておりますので、ご参照ください。

次に、37ページ・38ページをお願いします。「その他の新たな取組」で、これから新たに実施予定の取組であります。

次に、39ページ・40ページをご覧ください。ここから56ページまでは、「実施中の取組」であります。

市や各種団体、企業等、様々な実施主体により、東部地域、あるいは東部地域を含む市内全域を対象に実施されている取組を、東部振興構想における取組方針ごとにまとめたものであります。

最後に、57ページ・58ページをご覧ください。「東部まちづくりの進捗確認」であります。

ご承知のとおり、東部振興構想は、その計画期間を10年としていることから、この間に、スピード感を持ち、かつ柔軟に取組を進めていくことが重要であると考えております。

そこで、このアクションプランは、東部振興構想の実現に向けた進捗管理のツールとしても活用すべく、毎年更新し、かつ、一過性で終わらないよう、今後の3ヶ年の取組をまとめる「ローリング計画」としてしています。57ページの図にありますように、アクションプランを実行していく中で、まちづくりの進捗状況、つまり、東部地域がどのような状態になっているかを、東部振興構想に掲げる取組方針ごとに設定している10の参考指標をチェックすることで、その達成度の確認を行います。

そこから、今後、必要なことなどを評価・検証しながら、取組の改善や追加を行い、アクションプランへ反映させていくことを繰り返す、いわゆるPDCAサイクルを回していき、最終的には、KPI（重要業績評価指標）により、まちの状態を把握、確認しながら、東部振興構想に掲げる「東部地域の将来像」の実現につなげていくこととしております。

以上が、アクションプランの概要についての説明となります。

議題(1)については、以上であります。

【会長】

はい。どうもありがとうございました。ただいま議題(1)のアクションプランについてこれから3年間のアクションプランについてご説明をいただきました。

今年から自立したプロジェクトが 3 つありますが、うまく自立が成立していますでしょうか。例えば、小柳さんのあおぞら市場 in 緑道はどうでしょう。

【小柳委員】

あおぞら市場は皆さんのご指導をいただいて進めて参りまして、内容もただ販売をするということだけでなく、農業従事者の皆さんとも桃花台住民とも交流ができる場を作りました。また同時に買い物を来ていただく方々にも、買い物で久しぶりに会って帰ってしまうのではもったいないので、近くの会館での交流の場を開きましたが、こちらも大分盛況でした。

今後考えるのは、農家の皆さんに出品をお願いしておりますが、ももの時期と重なる時期に夏野菜を作ることは難しく出品が少なくなってしまうです。夏場は農協さんをお願いして自分たちで仕入れているが、品物が少なくあっという間に完売してしまう。

そのため、もう少し品物を交互にするような形でやることで、来ていただいた方が満足する買い物ができると思っております。

もう 1 つは、実はまだ実現はしていないが、ただ物売る交流だけじゃなくて、幅広い交流をしたいと考えています。桃ヶ丘小学校区は外国籍のこどもたちが非常に多いので、できれば外国籍のこどもたちの協力をいただきながら、その保護者にも足を運んでもらうといった形を作って、さらに地域の中に外国の皆さんが溶け込んで交流できるような形を取りたいと思って学校にも相談しています。

しかし、中学生になると、学校の関係で時間をなかなか取れないという課題があり、今足踏み状態です。

このあおぞら市場だけではなくて中学校とは行政の方にも参加いただいている多文化交流をしていますので、交流の中で、あおぞら市場も少しずつ、輪を広げていくという工夫を今後していかなければならないことも課題になっています。

【会長】

はい。ありがとうございます。多文化交流まで進められるということですね。

今年度から導入したプロジェクト C の企業とのマッチングについて、実績や進み具合はいかがですか。

【東部まちづくり推進室長】

東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度については、今のところ支援を求めている活動が 1 つ登録をいただいている状況であり、事業者様の方からの支援の申し出というところには至っておりません。

ただ先ほどご説明した 3 年目の取組であるあおぞら市場、こどもマルシェについては、このマッチングの制度は活用されておりましたが、地元の企業や大学と連携するなど、周りと一緒に繋がりながら活動されているため、その取組のお話も聞きながら、制度も活用していければと今考えているところです。

【会長】

実態として企業との連携をされている地元中学生とケーブルテレビとの取組や、ワイナリーの商品開発などのトライアル活動があるため、制度は使われていないですが、評価の際は制度の一環としてその取組を位置付けてもいいと思います。

【東部まちづくり推進室長】

宮脇委員の活動されている今週金曜日に実施されるまめなしの観測会についても、地元の企業と連携し取組されているため、そういった方からもお話を伺っていきたいと思います。

【会長】

宮脇委員いかがでしょうか。少し補足ございますでしょうか。

【宮脇委員】

平成 11 年にまめなしが発見されて、当時小牧市桃花台でも知っている人がいなかったのも、より多くの人に知っていただきたいということから、4 年前に始めた取組です。

まめなしとトウカイコモウセンゴケは東海地域だけにしかない固有の植物であり、その 2 つが東部地域に生えているため、この資源を活用して交流人口につながるようにしていきたいということで進めています。

【会長】

わかりました。モウセンゴケは食虫植物ですか。

【宮脇委員】

はい。食虫植物です。コモウセンゴケは冬枯れますが、トウカイコモウセンゴケは東海丘陵要素植物 15 種類の中の 2 つが小牧にあり、非常に貴重な植物だと思っております。

【会長】

他に何かございますか。小柳委員どうぞ。

【小柳委員】

今議題になっている内容は、これからの 3 年間の活動の指針についてですが、今までも各地区、各組織でいろんな活動をしてくださっています。私が思うには、それぞれの活動は一定の成果を上げながら進んでいると思います。ケーブルテレビを拝見すると、犬山市や春日井市の周辺地域でも、多くの活動をしています。こういった活動がいきいきとされていることはこれからも大事であり、また、新たな発想も必要だと思います。

トライアル企画の中で、ワークショップに参加すると、特にこの地区の良いところを SNS で発信するといった発想があります。宮脇委員がおっしゃったように、東部地区には資源があります。例えば中央公園の中に、桃花台建設の整地される際に壊されかけ、市や県に申し入れて残してもらった西暦 1200 年前の正規の 1 つしか残っていない 47 号窯があります。また、教育委員会にお願いして残してもらった桃花台開発をする前の東部地域の地形を石膏で写し取った模型が東部市民センターにあります。このようによいところがたくさんあり、また歴史的なものもたくさんあるので、発信できる体制を作っていく必要があると思います。

活動はもう本当に大切であり、活発に動いてもらう必要がありますが、さらに外部に評価される部分をつくりだしていく必要があるという想いもあり、今後トライアルを企画するメンバーが出てくると本当にうれしく思います。

【会長】

A のプラットフォームの機能も 1 つですし、地域資源をどう発見発掘して、こういった形で情報発信しプロモーションするかといったことについて事務局の戦略や考えがありますか。

【東部まちづくり推進室長】

情報発信というところはこれまでも力を入れていかなければということで考えておりますが、まだなかなか至っておりません。SNS や市のホームページでの情報発信、また、市外にもブースを出展し、東部の魅力を発信しておりますが、やはり今後力を入れていく必要があると考えております。先ほど小柳委員からお話が出たワークショップについては、今年も2月3月で開催し、参加された方からもまちの魅力をどうやって発信するかといったアイデアもたくさんいただいております。魅力を発掘するといった取り組みをやりたい方もいらっしゃると思いますので、そういったトライアル活動も一緒にやりながら、力を入れていきたいと思っております。

【会長】

宮脇委員や小柳委員もインスタグラムや SNS でプロジェクトの発信はされていますか。

【小柳委員】

あおぞら市場はしていません。

【宮脇委員】

私たちの市民活動団体であるシニア低山登ろうかいは活動をインスタグラムに載せていることと、私たちのアカウントではないですが、ヤママップというアプリにも載せています。

東部地域にある尾張白山は尾張三山の1つであり、冬になると長野県から雪が積もることで、山歩きができない方がネットで山登りできる場所を調べて一番近い尾張白山に登りに来られます。今度ジャンクションができるので、うまく活用して交流人口をどうやって増やしていくかを考えています。尾張白山や小牧アルプスを登った履歴については、大体1人の人にフォロワーが150や200いるため、あとは尾張白山に登りやすいように駐車場やトイレを完備されればより一層来ていただけたらと思っています。

【会長】

Wa i b e e e e マルシェは結構情報発信されているのではないですか。

【東部まちづくり推進室長】

Wa i b e e e e マルシェはご自身のインスタグラムなどで頻繁に情報発信されています。

【会長】

各活動にアプリを紹介して個別にどんどん発信してもらうようにお願いすることも1つだと思います。

【東部まちづくり推進室長】

情報発信の点で補足させていただきます。市外に向けての情報発信というところでは、オブザーバーのURさんが運営されている名古屋の栄の森の地下街にあるまちのたねにて、今年度も1週間東部地域も含めて小牧市のブースを出展し、情報発信を行いました。

また、昨年度も栄の cuca にて、フードロス商品開発としてトライアル活動を進めている、パンベルやワイナリーのA J Uと一緒に東部地域の魅力発信を市外でもURさんと連携して進めております。

【会長】

都心部で発信することも大切になります。秦野委員は市民活動という点で情報発信についてはどういった戦略で展開されていますか。

【秦野委員】

東部に限らずですが、ワクティブ小牧では市内全域の活動を取り上げて情報発信と、市民活動に関わりたい人を募集し、市民活動体験講座をしていただくということを実施している状況です。

【会長】

この頃はホームページを充実させてヒット数をカウントするということは一時代前で、どちらかというとダイレクトメール的なDM的な情報を送り付ける戦略といった、待ち受け型ではなく、押し売りのような情報発信が必要になっているかと思います。

古池先生いかがでしょうか。

【古池委員】

先ほど小柳委員の1,200年前の正規の窯があるとの話は驚きました。

会長もおっしゃったように、まだ発掘しきれていない、共有されていない文化資源が眠っていると思います。価値のシェアをワークショップなどを機会として、学習といった価値共有の場をうまく広げると、今までにない活動を誘発できると思いますし、自然資源も含めた文化資源の共有をやって魅力開発の可能性があると聞いていて思いました。

【会長】

大塚先生何かありますか。

【大塚委員】

情報発信は大事だと思っています。以前トライアル活動で東部の魅力発信をされていたチームがあったように思います。トライアルの活動を実施した課題を踏まえて次の情報発信を考えていくことも必要になるかと思っています。次の情報発信を個々でやっていく時代かもしれないが、ある程度全体まとめてということも必要になってくると思います。魅力発信に取り組んでいた方の活動を通して何か課題というのが見えてきたということがあれば教えていただきたいと思っています。

【東部まちづくり推進室長】

今大塚先生からお話いただいたのが、令和4年度から東部地域イメージアッププロジェクトで東部地域をドローンで撮影をし、YouTubeにて紹介することや、中部大学、名古屋経済大学の学生と一緒に東部地域の魅力を高めるイメージ写真を撮影するなどした取組で、写真や映像の完成度は高くなっており、YouTubeに載せて広く発信はしていますが、課題としてはアクセスを待っているだけでは届けたい方に届かないという状況であるため、会長がおっしゃったように、いかに届けていくかということができておらず、アクセスにつながっていないことが課題に感じております。

【会長】

小牧市全体としては、KPIにて関係人口の目標値を設定する、或いは交流人口の目標値を設定する計画はありますか。私の関連しているところでは、常住人口の伸びが期待できないため、総合計画に関係人口或いは交流人口の伸びを設定している市町村も出てきています。小牧市としてはいかがですか。

【東部まちづくり推進室長】

小牧市全体として関係人口や交流人口についての直接的な指標はありませんが、昼夜間人口

比率ということでは、小牧市は内陸工業都市ということで、前回の国勢調査の結果も約 118%で昼間の人口が多い状況です。それだけでなく関係人口や交流人口という情報も集めながら、東部振興構想令和 8 年度見直しに向けて検討していく必要があると思っております。

【会長】

交流人口や関係人口は難しいですが、夜間人口は簡単には増えていかないので、むしろ交流する人口や関係人口を目標値に掲げることも次期アクションプランではいるかもしれません。交流人口などはこれだけ少子高齢社会の中では必要になってくるかもしれません。

マイクロツーリズムで市内観光や周辺近隣市から入ってくる観光等もカウントするといったいろんなカウントの仕方があるので、そのあたり工夫すると、これからの交流の重要性や関係人口の増大が一つの地域の活性化に繋がることが示せると思いますので、一度皆さんで議論しましょう。

【東部まちづくり推進室長】

令和 8 年の中間見直しをする際には今の K P I は当然継続して測定していく必要はありますが、違う視点の指標というのも、まちの活力や状態を測るためには必要ではないかと感じています。

【会長】

わかりました。秦野委員どうぞ。

【秦野委員】

57 ページの取組方針の達成度の確認として 10 の参考指標のチェックと真ん中ピンク色で書かれていますが、ページを手繰っていくと参考指標が 12 あるように思います。このページで 10 と書かれているのはなぜですか。また、参考指標をめくっていくと、東部振興としてやりたい内容の意図ははっきり見えてきますが、K P I については、生産年齢人口の変化を年度で捉え 3 年間記載されていますが、どんどん少なくなっていくと数字として表れていますが、ただ減っているというように感じる方もいるのではないかと。予測に対し、人口の減り方を緩やかにしたいといった解説があると、目指している方向がわかるので、記述方法を工夫されるとよいと思います。

【会長】

まず参考指標の数は 10 か 12 どちらでしょうか。

【東部まちづくり推進室長】

37 ページからの『その他の新たな取組一覧』と 39 ページからの『実施中の取組一覧』では、取組方針の次世代と地域資源の参考指標が重複しているため、参考指標の実数は 10 です。

KPI の表現については、秦野委員おっしゃったように生産年齢人口の割合が減っていくという点は、将来の人口見通しでも仕方がないが、下げ幅を緩やかにし、推定よりも 1%高いところに、将来最終的に 2 パーセント上のところを目指すということではありますが、その解説がこのアクションプランを見ると記載されておらず下がっていくのが目標のように誤解が生じると思いますので、この辺りの解説や説明の部分を工夫していきたいと思います。

【会長】

守りの姿勢と、先ほど言った交流人口や関係人口といった攻めの K P I を中期見直しで一度

考えていただくことも1つかと思います。そして、生産人口に関しては、桃花台ニュータウンも含め、東部地域全体の可能性としては、就業地の可能性があるので、生産人口を獲得しようと考え、まずは就業地が東部地域の中でどれほど充実するかという点も必要になってくると思います。

【落合委員】

41 ページに地域協議会の名称が出ておりますが、地域協議会は、区の行政区と通学路がバラバラになっていることや同じ区が2つも3つも分かれて地域協議会に入っているなど、通学区と小学校区単位にするということを大前提で地域協議会を立ち上げて今までの取組をやってきたわけであり、ほとんどの地区が立ち上がっている状況です。市から今後正式に学校の編成を検討すると打ち出されて、会議などでも学校が廃校になっていくという話も出ている。東部地域だけの問題ではないですが、学校編成がされても地域協議会が素直にのってこられるように、編成をしたことで尾を引いて、地域協議会自体がぐちゃぐちゃになってはいけなくて、今の段階で構想にもあげておけるとよいと思いますし、今がチャンスかと思います。

【会長】

従来までは小学校区がすべての活動の単位になっていましたが、これほど人口減少少子化の中で学校統廃合が出てきた場合に、従来型の地域協議会との整合性や継承などをかなり考えていかないといけないといった指摘かと思います。こちらで中期見直しの際に考えていかなければならないかと思います。事務局いかがですか。

【東部まちづくり推進室長】

落合委員からお話ありました学校再編は教育委員会が主体となり、今年度新たな学校づくり推進計画を策定し、東部地域は再編の優先度が高いと位置づけされており、来年度4月から地域住民、保護者、学校関係者、そして行政で話し合いの場が設けられ、具体的な進め方について議論が始められると伺っております。

落合委員がおっしゃるような東部地域の5つの地域協議会が再編によってどうなるのかについても、議論の中で話し合われていくと思います。

いずれにしても、まちづくりにおいて地域協議会にご協力をいただいておりますので、議論の行方をしっかりと見ていきながら、一緒にまちづくりを今後もよりよい形で進められるように考えていきたいと思っております。

【会長】

小学校区は非常に様々な地域活動のベースの区切りになっているため、教育委員会の中で完結するのではなく、市民生活と深く関係しているというあたりを念頭に置きながら戦略を立てていただく必要があると思います。そして、再編の動きがあるのであれば、やはり中期見直しのあたりで整合をきっちり取れるようにといった内容を含めていく必要があるかと思います。

【小柳委員】

個々の計画、項目について申し上げるわけではありません。

私もトライアル企画のワークショップにできる限り参加させていただいておりますが、その中で一番関心持つことは、若い人、特に中学生が参加していることが本当にうれしく思いました。

私は今年1月に開催した外国籍の中学生のこどもたちと地域協議会の役員との座談会にて中学生と接しており、中学生の発想はいいなと思いました。会議には外国籍のこどもばかりではなく、日本のこどもと外国籍のこどもは仲が良いので日本人のこどももまぜて開催することを学校から要請され、参加してくれた生徒は12名で、その内日本人6名、外国籍或いは外国にルーツを持つこどもが6名でした。そのこどもたちからは高齢者が先立って挨拶をしてくれる雰囲気があること、整備された街並みなどの地区の良さを話している中に、ぜひ桃花台に住みたい、就職したいという声が初めて出てくるなど前向きな意見が多かったことがうれしかったです。

他の意見として、こまくるの見直しを進められていることに対して、若い人たちから1時間に1本しかないので2本欲しいという意見が出ており、高齢者も同様です。

これは、単純な話ではなく、こどもたちはこれから世をしょって立つ期待の星ですので、中学生と掘り下げた議論、座談会をやりたいと思っても時間が足りません。

こういった時間をとれるよう学校にもお願いし、ワークショップにて発言してもらえると引き出した意見が出てくるし、地区に対する理解度も高まっていくと思います。

その後の取組については、若い人に考えてもらうといった雰囲気、まちが前進していくと嬉しいなと思います。

もう1点、中学1年生のこどもたちが、校区をまち探検するという企画をして実施しました。校区内にポイントを作り、地域協議会の役員がポイントで地区についての説明をするといった企画です。こどもたち自身で企画し、地域の人を参加させたというようなまちづくりをしたいと思います。

【東部まちづくり推進室長】

座談会にも東部まちづくり推進室職員も参加させていただいて、状況は承知しております。これからの若い世代の考え方を伺いたいという想いがあり、トライアルワークショップも2月3月に開催した際にも、地元の桃陵中学校の生徒がたくさん来ていただき、来年度の活動にも卒業して高校生になる方が一緒に活動をしていくと言ってくれている状況ですので、若い人のアイデアはこれから生かしていく必要があると考えております。

【会長】

これからの小中学校は文科省もコミュニティスクール化と言っており、地域とどう連携するかということが小中学校には非常に重要な課題になっており、地域と連携しないと課外活動もできないといった状況になってきています。教育委員会はすでにご存知と思いますが、従来までの延長型の教育委員会ではなく、もっと密に地域との連携を教育委員会が意識していくことが必要になると思います。議事録を教育委員会にも回していただくとよいと思います。

私の近辺では課外授業は一切学校でせずに、地域に依存するということを打ち出している学校も出てきていますので、念頭に置いて考えていただく必要があると思います。

【田中委員】

1点要望です。住民の方々もすごく熱い想いを持っていますし、こどもたちも参画してくれるワークショップですので、企業がどう絡んでいくという点が今までも弱さがあった気がします。誰かが住民活動と企業をつなぐのか、それともワークショップに参画してもらう際に、

魅力を伝えながら参画していただくといったつなぎの部分が重要となります。こういった方法で進めていくかはこれからだと思いますが、重点的に取り上げていただけるとよいと思います。

【会長】

今の話はアクションプランCの企業へのプロモーションやお誘いかけ、マッチングの戦略というところかと思います。何かコメントございますか。

【東部まちづくり推進室長】

パートナーシップ制度は先ほど説明申し上げたようになかなかうまく軌道に乗せられていないという点が課題に感じております。現在、小牧商工会議所へ協力をお願いし、東部地域に所在する企業を紹介いただきましたので、待つだけでなく我々から足を運び、東部地域の今の取組状況等まずは活動を知っていただくということで個別に呼びかけしているところです。

【田中委員】

今年度社協にて企業回りをしていく中で、企業も何かやりたいがやり方がわからないという声がありましたので、その声に期待したいと思います。

【会長】

東部地域に関わらず小牧市内の企業全般にお声がけした方が広がるかと思います。

【東部まちづくり推進室長】

社会福祉協議会さんでは先進的にボランティア活動されている方と企業の支援とのマッチングに取り組んでいらっしゃるのので、見習いながら東部地域も頑張っていきたいと思います。

【会長】

大体アクションプランに関しては意見交換ができたと思いますが、何かございますか。

【会長】

こちらは議題ですのでお諮りしたいと思いますけれども、アクションプラン原案についてはご了承いただくということでよろしいでしょうか。

【委員全員】

はい。

【会長】

運用していく中で本日中期見直しに対する課題やプロモーションに要する機会の増大、企業とのマッチングの増大などの貴重なご意見をいただいておりますので、運用の中で展開していくという形で事務局も取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願いします。

それでは審議事項が終わりましたので、報告案件に入っていきたいと思います。

ここでも何回かご報告いただいております、小牧市都市計画マスタープラン地域別構想がすでに公表されていますが、概要を説明いただくということでよろしくお願いします。

【都市計画課長】

都市計画マスタープランの改定について説明いたします。

本市では、昨年度から2か年をかけて都市計画マスタープランの改定を行っておりまして、本審議会でも適宜ご報告をさせていただきながら計画案を作成いたしました。

その計画案につきましては、昨年11月5日から12月4日にかけてパブリックコメントを実施いたしました。特に意見はありませんでしたので、前回ご報告させていただいた計画案から修

正事項なく最終の計画案とし、1月10日の都市計画審議会にて諮問し答申を受け、3月3日に公開をいたしました。

資料3をお願いいたします。公開した計画の概要版になります。

地域別構想のうち、東部地域のまちづくり構想において、今回の改定で、現計画から変更となった点について簡単に説明いたします。

3ページの地域別構想をお願いいたします。

右下東部地域のまちづくり方針の主な改定内容についてですが、進行する高齢化を踏まえ、高齢者が暮らしやすいまちづくりを推進するとともに、若者世代に居住地として選んでもらえるまちづくりが求められていることから、主に次の内容を位置付けています。

一つ目として、桃花台線旧車両基地用地について、今後の活用方針に基づき、必要に応じて都市計画の変更を検討

二つ目として、商業施設の維持・充実を図るとともに、生活サポート施設やコミュニティ施設等の配置を検討

三つ目として、居住エリアについて、良好な生活環境を維持しつつ、利便性を確保するための地域ニーズに応じた都市計画の変更を検討

四つ目として、高齢者の移動をサポートするきめ細やかな公共交通サービスを検討していくことなどを位置付けています。

簡単ではございますが、以上で都市計画マスタープランの改定についての説明とさせていただきます。

【会長】

今掲げていただいた話の中では、次にいろんな居住の選択や生活サービス施設の立地については2番目の『土地利用の見直しについて』でお話をいただけます。移動サービスについては、3番4番の『公共交通計画』や『自動運転の状況』でもご報告いただきます。今の段階で、マスタープランに関してはもう策定され公表されただけですので、質問になろうかと思いますが、何かご質問ございますか。

先ほど小柳委員からもお話しあったように若い人がここで住みたいとか、ここで就業したいとかというのはやはりどう受けとめていくのかということのも非常に大事な時代が来ていると思います。その思いを受けとめるための『桃花台地区における土地利用の見直しについて』をご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

【都市計画課長】

それでは、報告事項(2)桃花台地区における土地利用の見直しについてご説明させていただきます。

資料4をお願いします。

本年度の都市計画マスタープランの改定の中で、桃花台の居住エリアの新たなまちづくり方針として、「良好な生活環境を維持しつつ、利便性を確保するための地域ニーズに応じた都市計画の変更を検討」としています。

また、商業エリアである桃花台センター地区は、本市東部の地域拠点として、日常生活に必要な商業施設や生活サポート施設・コミュニティ施設など生活利便施設の配置や商業集積の維

持・充実を図ることとしており、今後の桃花台地区における用途地域や地区計画の変更など、土地利用の見直しについて説明させていただきます。

3ページの桃花台地区計画区域図をお願いします。

図面の中の青色部分がA地区、第一種低層住居専用地域で地区計画により兼用住宅の用途の一部に制限がかけられています。次に緑色部分がB地区で第一種中高層住居専用地域ですが、地区計画によりA地区の第一種低層住居専用地域と同様の制限となっています。

これらのA・B地区については、日常生活に必要な店舗等や二世帯住宅等の立地を検討するために、今後の土地利用を見据えた用途地域の変更や地区計画における建物用途の制限の見直しのため、市民アンケート調査を実施し、地域ごとのニーズを把握したいと考えています。

つぎに、中央B地区の北側、現在コンビニがあります黄色部分がC地区で、第一種中高層住居専用地域となります。C地区については地区計画により単独店舗もしくは戸建て住宅が立地可能であり、兼用住宅の用途に一部制限がかけられており、建物高さは低層住居と同じ高さ10mに制限されています。

C地区においては、兼用住宅の用途の制限についての見直しを検討していきたいと考えています。

最後に、赤色着色部分がバロー、ピアーレ、ピエスタが立地しているD地区で商業地域となります。D地区においては地区計画による制限は現在ない現状ではありますが、東部地域の地域拠点として、日常生活に不可欠な商業施設の維持充実が必要なことから、各土地所有者をはじめ利害関係人や関係区とも十分調整・確認したうえで地区計画により、建物用途などに制限をかけていきたいと考えています。

4ページをお願いします。

こちらは、現在の地区計画による制限内容と今後の制限の変更案を表にまとめたものであります。

表内、左の列が現在の地区計画の制限であり、A・B・C地区については、現在建築が可能なものについて記載されており、右側には現在建築可能なものに加え、今後建築可能とする建築物の案を記載しています。D地区については、現在制限がないため、通常の商業地域の用途地域に応じた建築物が建設可能となっており、右側には今後建物用途に制限をかけ、建築可能なもののみの案を記載しています。

少し戻りまして2ページ下段になります。

今後のスケジュールについて記載しております。

今後、桃花台のA・B地区の住民を対象にアンケート調査を4月に予定しております。アンケート項目としては、兼用住宅の用途に関する考えや、日常生活を送る際にあったら良いと考える店舗の種類についての意見、また、二世帯住宅などの建物規模についての意見など、住民のニーズを調査したいと考えています。

このアンケート調査結果も参考にし、地区計画や用途地域に関する都市計画の変更案を作成し、地元区などに対して丁寧に説明したうえで桃花台地区における土地利用の見直しを進めていきたいと考えています。

以上、簡単ではございますが、報告事項(2)についての説明とさせていただきます。

【会長】

これからアンケート調査をされて、都市計画の変更手続きに入るということでございます。

特に私の住んでいる泉北ニュータウンの第一種低層住居専用地域のエリアについても、第1世代と第2世代のジェネレーションギャップが明確に出てきます。

第1世代はどちらかというと閑静な住宅地のままで、終の棲家としたいという意向が非常に強いことに対し、第2世代が入ってきて、いろんな就業の機会やコミュニティビジネスの機会、或いは住民生活サービス施設の一部立地ということが非常にしにくいです。

そのあたりのギャップをどう埋めていくのかというのは大きな課題だと思います。

あと大阪でやはり公的住宅で事業立地ができないといった限界性があります。

空き部屋を利用してこども食堂をやるといったことが、次の時代には、公的住宅の一部空き室を利用して生活サービス施設をできるような形への転換といった話が必要になってきます。それには用途の問題と同時にもう1つ大きな問題は消防法上の問題があるわけですが、その辺りを住宅政策の中で非常に重要になってくるかと思います。何かコメントご質問ありますか。

【落合委員】

四ツ池の西にあるB地区のエリアは、桃花台開発の最終に造成した地区であり、今は戸建て住宅が建っていますし、近くの土手には大きなマンションランディアが建てていることもあるので、わざわざ大きい建物をつくる必要がないように思います。また、このエリアは池の上で地盤自体が安定していない地区のような気がします。地震があると地面がやわらかくなって流砂することも考えられるので、建物をつくる際には大きな基礎を作るなどといったことも必要かと思っています。

【都市計画課長】

今落合委員がおっしゃったB地区には今戸建住宅が建っており、実質A地区と同様の高さ制限がかけられている状況でありますので、この地区に大きな建物ということではなく、今のA・B地区の戸建住宅の制限の中で、兼用住宅の店舗等の需要があるのかをアンケート調査し、用途の見直しを含めて考えていきたいと考えています。

【会長】

三世代住宅をしようとする建ぺい率の制限や容積率の制限のあたりを見直す必要があるかもしれません。大きな高い建物を建てるというよりも、戸建住宅で少し規模の大きな建物が三世代住宅となると必要になると思いますが、そのような考えでよろしいですか。

【都市計画課長】

増田先生がおっしゃった今の現住宅よりも少し規模の大きな三世代住宅等について、今後どうしていくかアンケートを含めて検討していきたいと考えております。

【大塚委員】

今の落合委員のお話を聞いていてB地区の2エリアについては、基本的には地域の生活拠点を作る桃花台センター1極ではなくて、サブの位置づけでB地区にも新たな何か建物を認めていくという考え方だと思います。私もこの地区についてアンケートをさせていただいており、桃花台の中でも比較的新しい若い世代が住んでいるエリアで、今後ニーズがどのくらい出てくるのかと思っています。空き家がぽつぽつ出ているエリアの方が、空き家を活用して新しくビジ

ネスを始めたいという方が出てくるのではないかと思いますので、その点も考えないといけないと思います。その辺りを増田会長にもご意見お聞きしたいと思います。

【会長】

資料4 ページ目を見るとA地区の第一種低層住居専用地域の兼用住宅の可能性を広げる案1や、容積率の変更という案2のあたりが、今大塚先生からご指摘のあった部分かと思いますし、その辺りの展開論は非常に重要になってくるのかと思います。何か事務局ございますか。

【都市計画課長】

今増田先生から話のあった通りですが、今の戸建住宅の制限は、兼用店舗が地区計画で制限されている中で、今の制限ですと塾やアトリエなど限られた建物しか兼用住宅でも建てられないということになっていますので、日常的な店舗といった兼用住宅も建てられることについて検討していきたいことと、地域別に世代間のジェネレーションギャップなども含めて、アンケートを実施し、地域ごとの需要を把握していきたいと考えております。

【会長】

これからの高齢社会の中でやはり行政が支援するというよりも地域が支援する高齢者のコミュニティカフェや、配膳サービス、こども食堂などといった需要も結構出てくると思いますので、その辺りもアンケートの中で聞いていただけるとありがたいと思います。

やはり新たに市民が市民にサービスにするとといった市民が地域の市民同士で支え合うような仕組みの利用というような辺りも聞いていただけるとありがたいなと思います。

非常に重要な案件で、やはり住み続けるという意味では非常に重要な変更手続きかと思うので、今後具体的によい方向に進めていただければと思います。

よろしいでしょうか。

【委員全員】

はい。

【会長】

それではもう1点移動困難者や移動に対してのシームレス化についての戦略が必要になってくると思います。3番『公共交通計画』、4番『自動運転の実施結果について』を連続してご報告いただければと思います。よろしくお願いします。

【都市整備課長】

都市整備課からは、はじめに、報告(3)としまして、令和7年3月に策定しました「小牧市地域公共交通計画について」ご説明させていただきます。

資料5「小牧市地域公共交通計画（案）についてのパブリックコメント実施結果」をご覧ください。

本計画の策定に関しましては、前回の当審議会におきまして、本計画（案）をお示しさせていただいたところですが、本計画の策定にあたり、市民の方々からご意見等をいただくため、広報こまき11月号や市ホームページで周知を行い、令和6年11月5日から令和6年12月4日までパブリックコメントを実施しました。

実施結果としましては、意見募集期間内に7名より12件の意見が提出され、広報こまき2月号、資料閲覧場所、市ホームページにて公表させていただいております。

なお、パブリックコメント実施結果による計画の修正はありませんでした。

続いて、地域公共交通計画参考資料1をご覧ください。

本計画の内容につきましては、前回の当審議会でご説明させていただいたところですが、今回は本計画の概要版を参考資料とさせていただきました。

1ページに「計画策定の趣旨」「計画の位置付け」「計画の区域と期間」「小牧市の地域公共交通が目指す姿（基本的な方針）」「ネットワークイメージ」を記載しています。

2ページに「市内公共交通機関の位置づけと役割」「計画の目標」として6つの目標を記載しています。

3ページに「計画の目標を達成するために行う事業」を表にして整理しています。

4ページに「数値指標と目標値」「計画の達成状況の評価」を記載しています。

計画書本編については、市ホームページにおいて公表しておりますので、ご覧いただければと思います。

以上で報告(3)「小牧市地域公共交通計画について」の説明とさせていただきます。

続きまして、報告(4)としまして、「令和6年度自動運転実証調査事業の実施結果について」ご説明させていただきます。

資料6「令和6年度自動運転実証調査事業の実施結果について（速報）」をご覧ください。

今年度の自動運転実証調査事業の実施概要につきましては、前回の当審議会におきまして、ご説明させていただいたところであり、今後、検証結果をお示しさせていただきますが、本日は実施結果の速報ということで、「ご乗車いただいた人数」や「実施した取り組み」などをご説明させていただきます。

運行期間は、令和7年1月25日から令和7年2月14日までの21日間で、期間全便の延べ乗車人数は2,138名、乗車率は61.3%でした。

平日における乗車人数は1,226名で乗車率が52.8%、土日祝日における乗車人数は912名で乗車率が78.5%でした。

次に運行ルートですが、桃花台ニュータウン内において、桃花台センターを起終点として西回りと東回りのルートを1日あたり各6便運行しました。

使用車両はMinibusを使用し、自動運転レベル2で走行しました。

次に、調査検証にあたり実施した取り組みについてご説明します。

まず、社会受容性に関する検証に係る取り組みですが、大きく分けて2つの取り組みを行いました。

1つ目は「自動運転に対する認知拡大を図るための取り組み」で、具体的な取り組みとしては、自動運転車両へのラッピング、自動運転専用バス停の設置、ピアーレ桃花台にて出発式の開催、ピアーレ桃花台と小牧市役所にて遠隔監視の様子を一般公開、広報こまき・公式LINEなどを活用した広報の実施、公共施設や運行ルート周辺の民間施設などへのポスター・チラシの設置、運行ルート上に自動運転車両が走行する旨を掲示した看板を設置しました。

2つ目は「自動運転に関する理解の促進を図るための取り組み」で、具体的な取り組みとしては、東部市民センターにて運行ルート周辺の地域住民などを対象とした特別セミナーの実施、桃ヶ丘小学校・桃陵中学校の児童・生徒を対象とした特別授業を実施しました。

また、自動運転車両内で乗務員や市職員による自動運転技術の説明を実施しました。

次に、自動運転環境の向上に関する検証にあたり実施した取り組みにつきましては、地域公共会議における実施内容の事前協議、運行ルート上のリスクアセスメントやリスクアセスメントに基づく準備走行の実施、ピアーレ桃花台と小牧市役所における遠隔監視の実施、1人の遠隔監視員が複数の実証地域の運行管理を同時に行う茨城県境町にある遠隔監視センターにて遠隔監視の実施、予約システムの構築をはじめとした乗車事前予約体制の構築を実施しました。

また、利用者アンケート調査の定量的な詳しい分析については、現在行っているところですが、ご乗車いただいた方々からは、「昨年度より速度が速くなり、ブレーキが優しくなって乗り心地がよかった」「交差点で対向車などに反応して急なブレーキだった」などの乗り心地に関するご意見や、「初めて自動運転に乗って良い経験になった」「車内での説明が分かりやすく、自動運転の理解が深まった」「スムーズに自動で走行していて、早く導入されることを期待しています」などの自動運転に期待するご意見をいただきました。

以上で報告(4)「令和6年度自動運転実証調査事業の実施結果について」の説明とさせていただきます。

【会長】

ただいま公共交通計画と自動運転の速報のご報告をいただきました。

公共交通計画の中でこれから個別交通が非常に重要になってくるかと思いますが、小牧市は内部にレンタサイクルシステムや若い子が乗るスクーターといった小型乗り物利用の仕組みは今あるのでしょうか。

【都市整備課長】

現在レンタサイクルやスクーターなどの利用の設備などありませんが、今後新たな交通サービスも含めて検討していきたいと考えております。

【会長】

この辺りの有効性は結構あるかもしれません。

コミュニティタクシーといった個別交通はいかがですか。

【都市整備課長】

現在各地域ではデマンド交通やライドシェアなど、取り組みが行われている箇所がありますが、小牧市におきましても今後そういったサービスについても検討していきたいと考えております。

【会長】

生活サポートの仕組みとして必要になってくるかもしれません。もう1点、自動運転の3ページの最後の予約システムの構築と書かれていますが、今回はどこまでされたのか教えていただきたいです。

【都市整備課長】

車両の座席数としては14席ありまして、14席のうち10席を事前予約できるシステムにいたしました。

昨年度もライン等で予約できるシステムを構築したところですが、座席の空き状況がわかりにくいというようなご意見がありましたので、そのあたりを改善し、より予約しやすいような

システムに改良したところであります。

【会長】

これだけ交通基盤が整っていると自動運転等は非常に導入しやすく、特に桃花台ニュータウンは適合地だと思いますので、うまく展開していくと面白いですし、大いに期待したいと思います。

【落合委員】

桃花台地区のまちづくりについては、通過交通としての2本の大きな幹線道路が通っており、その他の地区内の道路については、幹線道路が入ってこず通学通勤の車が通り抜けできないようにもともと整備されました。そのため、桃花台で実施した自動運転の課題といった結果については、今後他の地区でやったとしても状況が違うので、もう一度桃花台の街割りや道路割といった当時の考えを照らし合わせ、使っていく必要があると考えています。

【会長】

自動運転は桃花台地区のように交通基盤がきっちり出来上がっている地区と一般市街地とでは大分違うので、やはりきっちりと分けて考察していただければという非常に重要なご指摘かと思っておりますので、よろしくお願いします。

【小柳委員】

桃花台のみならず自動運転は全国的に取組が始まっており、小牧も前年度2月に中心市街地で実施し、今年度は桃花台にて、全く道路事情が違う地区で実施したため、大事な実証調査になったと思っています。今回の調査は桃花台を実用的に回るのではなく、周辺を回っていただけではありますが、自動運転の理解を深めるためにはよかったと思います。次にも期待したいと思います。

【会長】

幹線道路ではなく、通過交通を排除した生活道路や緑道を使ったカート型の自動運転などの可能性もあるかもしれません。泉北ニュータウンやトヨタが開発している東富士の未来都市の中でカート型の個別交通を自動運転化するような取組もこれから出てくるかもしれません。桃花台地区の緑道システムがきっちり整っていることや幹線道路、補助幹線道路といった階層構造ができている優位性をうまく活用することかと思えます。

他はよろしいですか。

【委員全員】

はい。

【会長】

それでは最後報告としてその他がございます。事務局の方でその他ございますか。

【東部まちづくり推進室長】

報告(5)その他であります。2点ご報告させていただきます。

1点目、今年度後半の活動状況について、ご報告させていただきます。

参考資料7「まちづくり通信」をご覧ください。

資料の1ページから2ページにかけて記載しておりますが、今年度もワークショップやトライアル活動と並行して、プラットフォーム参加者の意識向上、スキルアップ等を図るため、まち

づくりセミナーを開催しました。

令和7年1月26日には、第6回まちづくりセミナーと併せて、東部地域トライアル活動実施報告会を開催しました。

今年度トライアル活動に取り組んだ11チームから活動の成果を報告いただいた後、講師の名畑さんや増田会長より、イベントへの集客力や商品開発等への評価、活動内容の展開についてのアイデアや、魅力を発信する際のアドバイス等もいただきました。

次に、資料の3ページから4ページに記載しておりますが、今年度より、トライアル活動の早期開始を目的として、ワークショップを2月、3月に3回開催しております。

資料に記載はありませんが、3回目のワークショップは先日の日曜日に開催し、活発に意見を出し合い、新たなトライアル活動に向けて動き出すことができました。

今回のワークショップでは、審議会の委員としてもお世話になっております5つの小学校区の地域協議会にご協力をいただき、日頃の活動を紹介いただくとともに、話し合いにもご参加いただき、貴重なお話をお聞かせいただくことができました。

また、これまでにトライアル活動を実施されてきた方も参加され、新たな仲間集めや活動の幅を広げるよう意見交換されていきました。

1点目、今年度後半の活動状況については以上です。

次に、2点目、桃花台線旧車両基地用地の利活用に向けた検討状況について、報告させていただきます。資料はございません。

本年1月に、民間活力を導入した施設整備を視野に入れ、民間事業者との対話を通じ、利活用のアイデアや参入しやすい事業方式等を把握するため、県と市の共同で公募によるサウンディング型市場調査を実施いたしました。

今回の調査では、3つの事業者の参加があり、利活用のアイデアとして、商業施設、飲食施設、小売店、温浴施設、物流倉庫、整備工場といった提案をいただきました。

今後、サウンディング調査での事業者からの提案内容、意見等を参考にし、地元ニーズや東部振興構想に沿った利活用に向け、引き続き愛知県と協議を進めてまいります。

その他の報告は以上です。

それから、当審議会であります。現委員の皆様の任期が3月31日で満了となり、現メンバーでの審議会は本日が最後となります。

皆様には、この2年間、東部地域のまちづくり推進のために、多大なるお力添えをいただき、深く感謝申し上げます。

次回の審議会からは、新たなメンバーでの開催となりますのでよろしくお願いいたします。以上です。

【会長】

ただいま今年度後期の活動の話と次年度に向けてすでに活動されている内容、そして車両基地のサウンディング調査の概要の話をいただきました。

今年も何個か新しいトライアル活動のグループが形成できそうですか。

【東部まちづくり推進室長】

参加いただいた方も話し合いの結果、前向きにいろいろやりたいアイデアを出していただい

ている状況です。

【会長】

他市にはない2月、3月に次年度に向けての活動をスタートいただくと、令和7年度の活動が丸1年きっちりとできるので、非常に良い取組です。会計年度にこだわらずに展開していただくということは非常に重要な視点だと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思うことが1つ。もう1つは活動というのは、地域協議会といった地縁型の組織と、こどもマルシェやおぞら市場などのテーマ型で実施する活動をどうつなげていくかということが非常に重要で、今回も地域協議会の方がワークショップにご参画いただいたという点もすばらしい取組だと思いますので、継続していただければと思いました。

【秦野委員】

まちづくり通信は非常に細かく詳しく書かれていますが、こういった情報発信をされていますか。印刷されたものがどこで設置されたのか等の情報の伝え方について、場所やターゲットといった具体的な取組を教えていただけるとありがたいです。

【東部まちづくり推進室長】

まちづくりに興味のある方が登録いただいている東部まちづくりプラットフォームで周知すること、市のホームページへの掲載はもちろんしております。それから、ワークショップや市が行うイベントなどでは紙を活用するなどを、今の取組状況を報告するツールとして活用している状況です。しかし、紙として印刷して広く周知のためお配りするということまでは今は至っていません。

【秦野委員】

内容も充実して、いろんな方たちが集まってきていることが非常によくわかる資料だと思いますので、小牧市内だけでなく、いろんな地域にうまく情報発信すると、もしかしたら小牧の東部に1回引っ越して住んでみようとなる可能性があるのでは、情報発信の仕掛けを考えられるとよいと思います。

また、企業と取組のマッチングというお話がありましたので、例えば小牧市も使われているSDGs登録制度などの方面などといった方面にも情報共有いただけたらとうまく広がるのではないかと感じました。

【会長】

紙をばんばん配る時代ではないのかもしれませんが、審議会委員としてご参加されている青年会議所や社協、商工会議所などに必要部数を確認し、配布するといったことも1つかと思います。もう1つは栄の中心部でプロモーションの期間がある際に配架し、市外の人に見てもらおうという方法も1つかかもしれません。

【東部まちづくり推進室長】

当初から情報発信をいかにしていくかということは常に考えていかなければならないと今後の課題として捉えています。

【会長】

リモートで参加されている横山先生は、継続してずっと委員をされていましたが今期が最後ということも兼ねて、最後にご意見いただければと思います。

【横山委員】

発言の機会をいただきましてどうもありがとうございます。1つだけ心配していることがあります。小牧市にはまちづくり協議会的な、地域自治組織があり、東部地域でもあったかと思います。そういった地域自治組織と新たなプラットフォーム等の組織の活動が重複しないような役割分担などの整理がしっかりできるのだろうかということです。いろいろな取組をされていて素晴らしいと思いますが、担い手が限られてきている状況ですので、皆さんの負担を心配しているところです。多くのセクターアクターに参加いただいて、皆で力を合わせてまちづくりをやっているということは大賛成ではありますが、一方でいかに負担感を軽減してやっていくかということが必要になるということを最後に申し上げたいと思います。以上です。

【会長】

長期間にわたりご指導いただきましてありがとうございました。また何かの機会がございましたら、今後ともよろしく願います。横山先生のご発言に対して何か事務局コメントございますか。

【東部まちづくり推進室長】

担い手が限られている中で、自治組織やいろいろな活動をされている団体、地元の行政区、地域協議会があり、皆住みよいまちを目指していこうという想いは同じだと思いますので、横山先生がおっしゃったように、せっかく同じ方向を向いて実施しているのに、内容が重複して無駄なことにならないように、連携、意見交換をしながら、効率的に限られた人員でも、最大の効果があげられるように協力体制を築いていくことが大切だとお聞きして感じました。

【会長】

地域協議会の方はいろんな部局から依頼があって、本当に日常お忙しい状態が発生しているように思いますので、うまく連携しながら効率よく進めていくことが必要かもしれません。他よろしいですか。

【委員全員】

はい。

【会長】

本日本日予定しておりました案件に関しては、すべて意見交換できたかと思います。ご協力どうもありがとうございました。それでは事務局に進行をお返ししたいと思います。

【都市政策部次長】

本日は長時間にわたりご議論いただき誠にありがとうございました。

本日の会議録につきましては、委員の皆様にご確認をさせていただきますよう考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

第14回小牧市等まちづくり審議会にご出席いただき誠にありがとうございました。

最後に事務局より交通安全のお願いをさせていただきます。

本市におきまして、令和7年2月24日に、本年、1件目の交通死亡事故が発生しております。交通事故を決して他人ごととは思わず、日頃から気をつけていただき交通安全に努めていただきますよう、改めてお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第14回小牧市等まちづくり審議会を閉会いたします。本日はあ

ありがとうございました。